

地域山林と協和木材の取組

関東北部八溝山系の山林を仕事の間として

集成材工場

埴工場

協和木材株式会社 佐川 広興

森林資源が充実し、収穫期を向える。

国内森林資源利用について、様々な提案が出ている中、長年山と共に生活してきた者として心配な点。

- 1 A材、無垢材として利用できる通直良材の利用減少。
(A材のB,C,D材化)
- 2 素材生産と伐採跡地、再造林のにない手不足。

山林 皆伐時の採材比率



C,D材 20% 小径材、枝材、節材 製紙、ボード用チップ、燃料チップ

A材 60% 通直材 建築構造材、下地材、内装材

B材 20% 根曲り材、きず材 合板材、集成材

小中断面無垢材建築

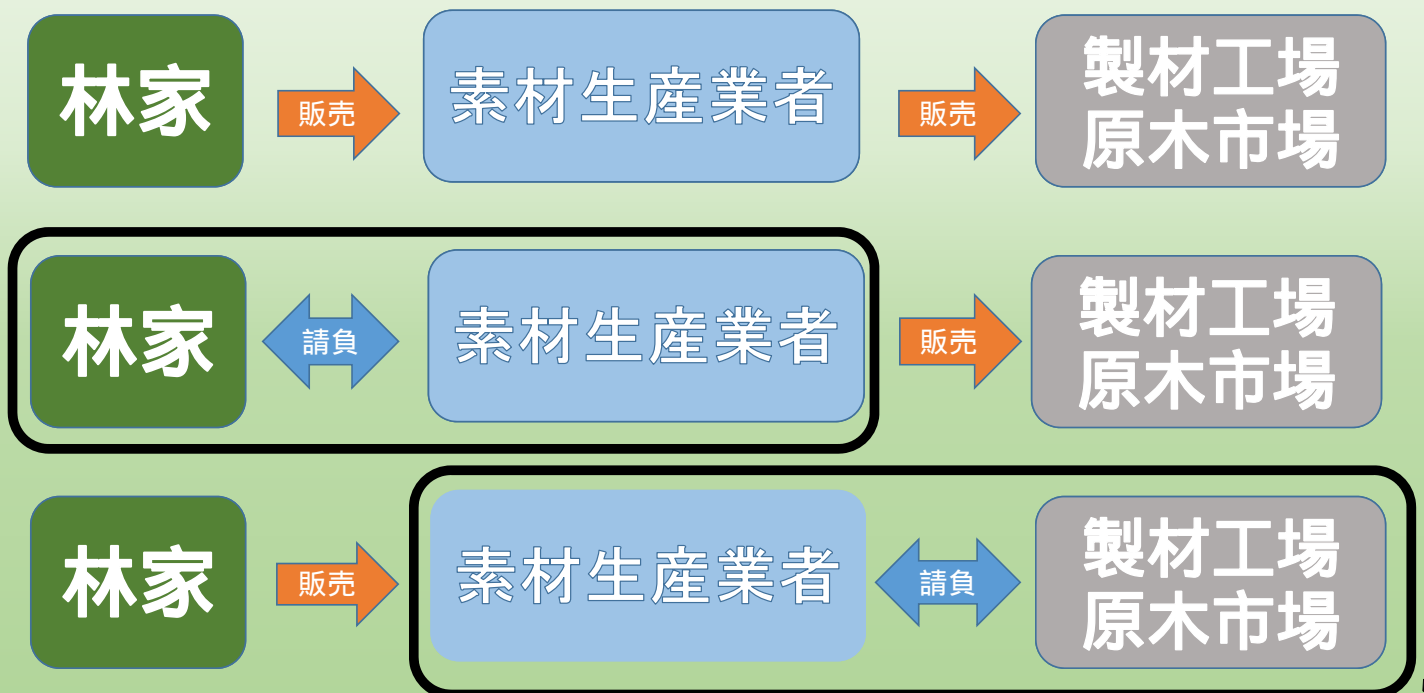


大断面無垢建築



芯持ちムク材利用の増加を

素材生産の形態



素材生産業のあり方

伐採現場は1ha~10haが大部分

10人以上を有する事業体の必要はない
高性能林業機械での作業

1現場 2~4人が
適正

2~4人で500~1,000m³/月 生産する
事業体の育成

200~400万/月の
作業代収入

素材生産業を、事業体・一人親方として
育成してきた

協栄会



高性能林業機械



素材生産規模・伐採面積に見合う作業班を

地ごしらえと バイオマスチップ生産



8

植林作業

コンテナ苗による・バイオマスチップ生産との同時作業化



9

林家が再造林作業の心配せずに収穫でき、立木販売収入がそのまま収入になる体制作りを。

